

**令和4年度
空家等対策事業の進捗について**

令和4年度空家等対策事業（利活用）

項目	6月末までの実施状況	今後の予定
空き家バンクの運営	<ul style="list-style-type: none"> ・新規登録物件数:0件 ・新規利用者登録数:7件 ・マッチング依頼件数:1件 ・マッチング成立件数:1件 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP等での広報、マッチング業務を継続
空き家情報の広報	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の利活用啓発チラシの配布(5月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家無料相談会の実施(時期未定)
空家等の掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> ・中山道空き店舗等実態調査(愛荘町商工会と協業) →事前調査実施:12件 	<ul style="list-style-type: none"> ・意向確認の継続実施 ・令和3年度発掘店舗の活用意向向上
利活用モデルの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・追手門学院大学と協業し、空き家の利活用モデルを構築 →令和4年度事業に係る事前協議実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年2月～3月にかけてモデルの展示会を愛荘町と大阪にて実施
空家等の改修等補助	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家に関する補助金制度周知チラシの配布(5月) ・改修補助申込件数:1件 ・家財処分費補助申込件数:0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者および利用者への周知継続
空家等対策計画の改定 (中間見直し) * 資料5・6にて説明	<ul style="list-style-type: none"> ・空家等対策計画改定支援業務 →空家等候補物件の抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査、アンケート調査、分析の実施 ・空家等対策計画改定(案)の作成
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊の活用(ローカルベンチャーの誘致) →4月地域おこし協力隊2名着任 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月1日に更に1名着任 ・起業家誘致のための個別プロジェクトの組成 ・起業家(地域おこし協力隊)の募集

方向性

- 空き家等を地域の重要な不動産ストックと捉え、その利活用を図る。
- 空き家に関する補助金制度の活用を通じて、愛荘町に住みたい・住み続けたいと考える人を支援する。
- 空き家バンクは、空家等利用希望者数と比べて、空家等の物件登録が少ないという課題があるため、物件の掘り起こしを目指す。

令和4年度空家等対策事業（適正管理）

項目	6月末までの実施状況	今後の予定
条例の制定・施行等	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の区長・総代会にて条例の施行について説明を実施 ・広報への特集記事を掲載 ・固定資産税納税通知書への適正管理啓発チラシの同封 ・6月27日、滋賀県建築士会と協定を締結（現地調査、助言等） ・各自治会での条例施行や空家対策について説明 	条例に基づく対応および、協定に基づく建築士の派遣依頼（現地調査）
適正管理の相談受付	条例に基づく報告件数：10件	・所有者による対応件数を増やすよう、条例・規則に基づいた対応を行う

方向性

- 条例の施行に伴い、地域の代表である区長・総代から積極的な情報提供をいただいていることから引き続き連携を図り、情報収集を行う。
- 条例を施行したが、管理責任が所有者・管理者にあることは変わらないため、継続して空き家の適正管理を啓発・指導するとともに、アクションのない所有者への戸別訪問などを検討する。
※空家等を解体・売却したいが、相続登記が出来ないので手を付けられない。登記が支障になるケースがある。（解体・売却意思のある管理者が、相続人が多いことを理由に司法書士に登記を断られたケースがある。）
- 国・県等の動向（補正予算、相続登記の義務化 税制度など）を注視しながら、時流に合わせた事業を検討する。
- 所有者等へのアプローチと空家管理の大切さを理解してもらうことが必要であり、将来的に空家等となることが予想される家屋等について、空家等になる前から居住者、親族への啓発が大切であることから、今後も引き続き空家等の適正管理について周知を図る。

○滋賀県下初の協定

令和4年6月27日に公益社団法人滋賀県建築士会と「愛荘町における空家等の実態調査の判定支援に関する協定」を締結。

※滋賀県建築士会が県内の自治体と空家等の実態調査の判定支援に関する協定を締結するのは今回が初めてとなる。

○協定の主な内容

- ①協定に基づき建築士の派遣を実施
- ②町より依頼を受けた空家等の立入り調査とその調査報告
- ③特定空家等の判定支援
- ④その他空家対策の推進に関する助言・協力



- ・協定を締結したことで、空家の危険度が明確化
- ・管理方法の助言により、所有者等に的確な適正管理指導が可能



空き家の実態調査（愛荘町商工会との連携事業）について

- 中山道地域の空家等実態調査については令和2年度より愛荘町商工会と連携して事業を実施。
- 同地域において、外観目視、アンケート等による空家等の数の把握、所有者の意向調査を実施。
- 令和3年度は、「空家等：13戸 うち活用意向あり：3戸」等の成果を得た。
- 令和4年度においては、その成果を活用し、さらなる活用の進展を目指す。
- また、追手門学院大学との共同研究事業や、NCLの事業との相乗効果をあげられるような事業を実施する。

追手門学院大学

- ・ 空家等所有者へのインタビュー
- ・ 中山道愛知川宿に関する調査
- ・ 他地域事例の調査



- ・ 空家等の利活用モデルの検討
- ・ 中山道の将来像検討の補助（視覚化）



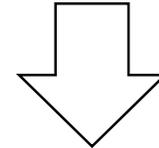
- ・ ローカルベンチャー育成業務

地域おこし協力隊

中山道の活性化
(ウォークアブルタウンの実現)

商工会

- ・ 商店会、商店街との協議、意見照会
- ・ 空家等へのさらなるアプローチ
(検討中物件の意向上げ、エリアの拡大)



- ・ 空家等の見える可、利活用意向の向上
- ・ 中山道の将来像検討の共有（仲間づくり）

令和4年度の達成目標

- ・ 空家等所有者へのインタビューの実施
- ・ 利活用モデルの方向性検討
- ・ 将来像検討に向けた方向性共有完了

- ・ 検討中→利活用意向有へ（2件）
- ・ 新規エリア利活用意向物件掘り起こし（3件）
- ・ 商店会、商店街からの協力事業者の掘り起こし

ローカルベンチャー誘致事業

- 町の魅力を高め、ウォークブルタウン創造事業の目的達成や移住・交流の促進を図るためには、地域の魅力を高め、愛荘町で地域課題の「持続可能な」解決手段を持った人材が必要である。
- そのために有用な手段の一つとして「ローカルベンチャー*1」の誘致・活用が考えられ、協働する団体として、全国各地で地域おこし協力隊の制度を活用した「ローカルベンチャー」の起業家・誘致に実績とノウハウのある一般社団法人Next Commons Lab(通称:NCL)を協力事業者として事業推進している。

*1:ローカルベンチャー:地域資源や地域の魅力を活かしたビジネスを通して、「地域の課題」を解決する事業



起業家の集う、「ワクワク」する町へ ～愛荘町ローカルベンチャープロジェクト始動！！～

進捗状況(6月末時点)

- 4月1日、起業家をサポートするコーディネーターとして2名の地域おこし協力隊が着任
- 地域資源のリサーチや地域のキーマンとの接点づくり
- 起業家の拠点となる物件探し

ロゴマーク



伝統産業や近現代の愛荘の発展を支えてきた清流(水)をイメージしたもの

コンセプト

つながりを生む マーケットを創る

小さくても魅力的な事業をはじめたり、地域に開かれた場所や機会をつくることで、人と人との新たなつながりの起点が生まれる。モノを取り引きするだけではない、豊かな関係を育む創造的なマーケット。地元の大切なものを残したり、新しいチャレンジを後押ししたり、人びとが暮し働くための心地良い基盤となるまちを、自らの手でつくっていかう。

今後の動き

- ・8月1日、起業家をサポートするコーディネーターとしてさらに1名の地域おこし協力隊が着任
- ・起業家誘致のための個別プロジェクトの組成
- ・起業家(地域おこし協力隊)の募集



地域資源を活かした起業を促進するなど、「人と人」、「人と資源」がつながる新たなマーケットの創出を目指す。

起業家の集う、「ワクワク」する町へ ～愛荘町ローカルベンチャー（注1）プロジェクト始動!!～

（注1：ローカルベンチャーとは、地域の課題をビジネスを通して持続的に解決する、社会的な企業のことです。）

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊は、都市地域から人口減少や高齢化などが進む地方へ移住者を呼び、地域ブランドや地場産品の開発・販売等の地域おこし支援や、定住・定着の支援をしながら地域の活性化に貢献してもらうという仕組みです。

愛荘町地域おこし協力隊

令和4年度から「地域おこし協力隊」の制度を活用し、「起業家」の誘致を通して町の魅力を高め、住民の皆様が愛荘町に「愛着と誇り」を感じていただけるような、「ワクワク」したまちづくりを推進します。

**愛荘町の皆さんはじめまして、
私たち「地域おこし協力隊」です。**

地域おこしを手伝ってくれる力強い人材が、愛荘町に移り住みました。
町に新しい風を吹かせてくれる「地域おこし協力隊」
これから、彼らと活動する地域の人たちも増えてくると思います。
協力隊はどんな人たちなのか、まずは自己紹介！

愛荘町の目指すビジョン

つながりを生む マーケットを創る

小さくても魅力的な事業をはじめたり
地域に開かれた場所や機会をつくることで
人と人との新たなつながりの起点が生まれます。
地元の大切なものを残したり、新しいチャレンジを後押しすることで
人びとが暮らし働くための心地良い基盤となるまちを
自らの手でつくっていきましょう。



☆地域おこし協力隊委嘱式☆

4月5日、町の活性化に取り組む地域おこし協力隊の委嘱式を、役場愛知川庁舎で行いました。
有村町長は「しっかり愛荘町に根を張り、様々な視点から町の宝を改めて輝かせ、そして新たな価値を付加していただきたい」と期待の言葉を述べました。



これからの愛荘町の未来のために、協力隊員との活動が始まります!!



成宮 毅
なるみや つよし
神奈川県 → 愛荘町
(1963年生まれ)
大学では理工学部土木工学科専攻
大手企業内の企画業務に携わる

☆成宮さんから一言☆

大阪出身、横浜に家族を残し愛荘町との二拠点生活をスタートしました。これまでの仕事はリモートワークをしながら、愛荘町のローカルベンチャープロジェクトに参加しました。愛荘町に住むのは初めてでありながら心の故郷（本籍地）との思いがいっぱいです。
地域おこし協力隊では「何が出来るか」より「何がしたいか」を皆さんと一緒に妄想して、ワクワクを増やしたいと思っています。町でみかけたら「なるさん」と呼んでみてください。



綿谷 駒太郎
わたに こまたろう
大阪府 → 愛荘町
(1991年生まれ)
大学では社会教育を専攻
前職・小学校教員

☆綿谷さんから一言☆

妻と共に愛荘町へやってまいりました。まだ新婚の綿谷駒太郎と申します。前職は小学校教員をしており、子どもから「こまさん」と呼ばれていました。愛荘町の皆さんにとって、家庭や学校以外の「ほっ」とできる居場所をつくっていくことが目標です。
大阪出身でお笑いを見るだけでなく、舞台に立つことも好きです。小さい頃から柔道をしており、体も大きいので、町内でも目立つと思います。ぜひ見かけた際にはお声がけください。



私たちの活動は
ここからも見られます。

URL : <https://lif.line.me/1645278921-kWRPP32q/?accountId=308qogxz>



問 未来創生課（愛知川庁舎） ☎0749-29-9046